

## I 実践

### 1 本校の人権教育の活動目標

人権教育という広い視野をもち、豊かな心情と正しい理解や判断力を養い、差別や偏見をもたない生徒を育成する。

### 2 本校の人権教育の努力点

- (1) 相手の立場を尊重しつつ、自分の考えや意見を表現し、相互理解を深めていけるよう指導の工夫改善を図る。
- (2) 人権教育の目標と内容を検討し、それらを各教科・道徳・特別活動等のそれぞれの特質に応じて年間指導計画に位置づけ、教育活動全体を通して指導の充実に努める。
- (3) 豊かな心情や人権尊重の精神を育てる指導方法について校内で研修し、その推進体制の整備をはかり、教師の人権に対する理解と認識を深めるように努める。
- (4) 各教科を通して、我が国や外国の歴史・文化に対する理解を深め、指導の工夫に努める。

### 3 実践内容

#### (1) 人権啓発講演会による学習

##### ア 講演内容について

平成25年12月4日(水)、日立市が行う「地域人権啓発活動活性化事業」の一環として、講師にタレントのダニエル・カール氏を迎えて、本校体育館を会場に講演会を行った。「～国や人種が違って～周りの人や社会への思いやり」という演題で、山形弁を使っの愉快的講演会となった。



#### ・文部省英語指導主事助手として山形県に赴任したときのことについて

大学卒業後、山形県に赴任した。その当時、まだ外国人がめずらしく、道を歩いているだけで好奇心で見られ、警察官にも呼び止められた思い出を話された。また、学校で授業を行っていても、最初に出てくる言葉が「Hello」や「Nice to meet you.」ではなく、いつも「This is a pen.」で、すごくうんざりした気持ちだったことを話された。

#### ・日本人の持っている「謙遜」について

日本人としてすばらしいが、外国の人にはない感情だと話され、そのことを元にした失敗談を披露した。

「身内に対しての呼び方で『父、母』などへりくだった表現で日本人は使う。ある日家に呼ばれ、『愚妻』という言葉で旦那さんから奥さんを紹介されたとき、名前が『グサイ』さんだと思っって、『グサイ』さんと名前を呼んでしまった。」

外国では、身内に尊敬を込めて呼ぶことが一般的であり、国によって謙遜の意味がちがうと説明された。

#### ・言葉遣いについて

「主語」がなく、何について話されているのかわからなくなり、間違っって意味をとらえてしま

うことがある。例えば、「あれ持ってきて」という言葉だけで、お互い意味を理解し、通じることがある。日本人には「以心伝心」という言葉があるが、外国の人にとっては、言葉を付け足して話してほしい。ちょっとの気遣いで、間違いやトラブルが減らせる。

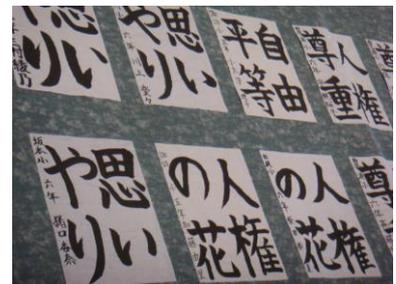


#### イ 生徒の感想

- ・人権について難しいイメージがあったが、とてもわかりやすく理解できた。
- ・日本語の難しさを改めて知った。
- ・外国人のもっている考え方と日本人の考え方をよく理解し、外国人に会ったときにおもてなしできるようにがんばりたい。
- ・ダニエル・カールさんの楽しい話で、人権に興味を持てた。

#### ウ 人権に関する生徒作品の展示

講演会の際、これまで行われた人権擁護委員の活動の写真や書道の作品を展示した。



#### (2) 人権教育に興味・関心を持たせる実践

講演会後に、人権についてさらに知ってもらい、関心を高める目的として、日高中の図書館にある人権に関する本を紹介した手紙を配布した。日本にも多くの人権問題があることを知り、より人権を考えるきっかけとして作成したものである。



#### 4 成果

ダニエル・カール氏を講師に行われた講演会で、国や人種が違っていても、差別や偏見のない社会を作ることの大切さを、生徒達は感じ取ったようだった。講演会後にアンケートを行い、人権問題に関心を持った生徒が多くいた。また、行動に移そうとする変化もみられた。今回の講演会で、人権問題に関心を持たせ、行動するきっかけを作ることができた。

#### II 今後の課題

成果で出たものを出発点として、今後行動に変わるように指導し、人権に対して継続して関心を持たせるようにしていかなければならない。また、差別や偏見だけが人権問題ではなく、世界にはもっと多くの人権問題がある。それについても扱えるように各教科・領域で触れられるようにしていきたい。